



スマホ、ネット、ゲーム依存からの脱却を！

5月に行った本校生徒のアンケート結果を下表にまとめています。「普段、どのくらい学校以外で学習していますか。」「普段、どのくらいゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマホゲーム等を含む）をしますか」という質問に対する回答人数をグラフにしたものです。

学習時間で一番多かったのは、全学年「1時間以上2時間未満」でした。ゲーム時間で一番多かったのは、1・2年生が「1時間以上2時間未満」で、3年生が「30分以上1時間未満」でした。

学習時間とゲーム時間を比較してみると、30分未満及び2時間以上の割合は、ゲーム時間が高くなっています。これは、ゲームをほとんどしない生徒とやめられない生徒がいるということだと思えます。

ヴァイオリニストの高嶋ちさ子さんは、約束していたルールを破った子どもの携帯ゲーム機を破壊したそうです。ルールを破ったことの重大さを認識させるための有効な方法だという意見もあれば、破壊して戒めにするのはよくないという意見など、賛否が分かれているようです。

ゲーム機やスマートフォンは今や多くの家庭にあります。それゆえ、使用に関する約束事は多くの家庭で決められているかと思いますが、なかなかどこで線引きをするのが難しい問題です。生徒に配布している「夏休みの生活心得」には、以下のように記載しています。

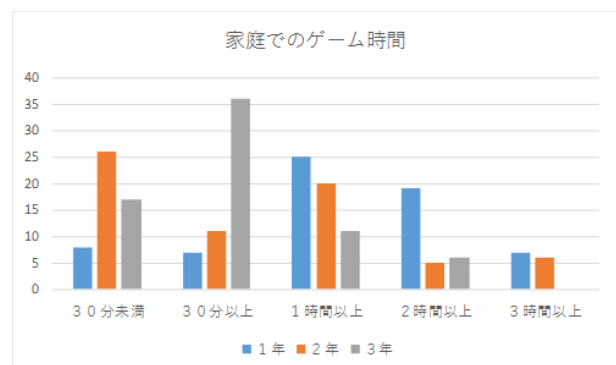
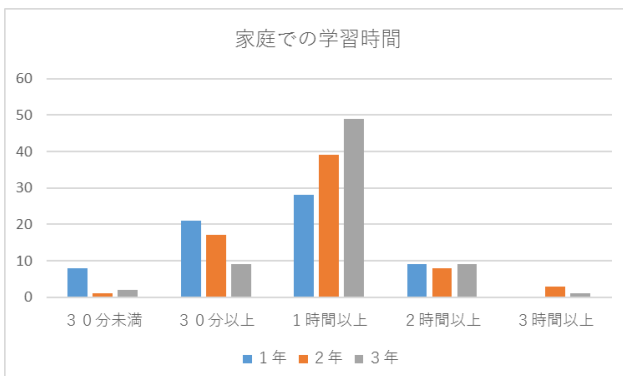
- ① インターネット等の使用は、保護者の管理の下で行う。

※携帯音楽プレーヤーやゲーム機等でのインターネット・メールも同様とする。

- ② LINE や SNS などの利用は保護者の管理の下、節度ある利用を心がける。

22時以降、携帯電話等は利用しない。

生徒がネット被害者や加害者にならないよう、「保護者の責任」としてお子様を守ってくださいますようお願いいたします。



～感動をありがとう～

7月4日（土）～5日（日）の2日間、南島原市中総体球技・武道大会が開催されました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な制約の中での大会となりましたが、本校生徒は、市内で唯一全競技に参加し、健闘してくれました。ご声援ありがとうございました。

上位入賞は、以下のとおりです。

<団体の部>

- 優勝 野球
- 準優勝 卓球男子
卓球女子
剣道男子
剣道女子
- 3位 バレーボール女子

<個人の部>

- 3位 林田 七海（卓球女子）
- 4位 藤原 弥来（剣道男子）



8月の行事予定

1	土		
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		ノ一部活動
6	木		
7	金		
8	土		
9	日	全校登校日	
10	月	山の日	ノ一部活動
11	火	振替休日	ノ一部活動
12	水	学校閉庁日	ノ一部活動
13	木	学校閉庁日	ノ一部活動
14	金	学校閉庁日	ノ一部活動
15	土		ノ一部活動
16	日	家庭の日	ノ一部活動
17	月		
18	火		
19	水		ノ一部活動
20	木		
21	金		
22	土		
23	日		
24	月	始業式	
25	火	実力テスト	
26	水	実力テスト	ノ一部活動
27	木		
28	金	学級役員任命式	
29	土		
30	日		
31	月		

※行事は変更になる可能性があります。

～学校閉庁日の設定について～

生徒のリフレッシュを図るとともに、家庭でふれあう機会を増やしたり、夏季における学校の省エネルギーを推進する目的で。8月10日（月）～16日（日）を学校閉庁期間とし、原則として部活動も行いません。

この期間中は、問い合わせ等に対応する者がいないため、必要に応じて南島原市教育委員会学校教育課へご連絡ください。（TEL：0957-73-6702）

ご理解・ご協力をお願いします。

<校長室の窓から>

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、「学習指導要領」が定められ、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。そのための方策の一つに言語能力の育成があり、各教科において言語活動の充実を図っていますが、家庭での楽しい会話で子どもの言語に関する能力を高めることができると考えています。

例えば、子どもが学校であったことを話し始めたとします。そうしたら「うん、うん」とか「そう」とかちゃんと相づちを打ちながら聞きます。そうすれば会話が弾みます。「なるほど」とか「それからどうなった？」などと言ってやれば、子どもはもっと詳しく話すようになります。「その時どんな気持ちだった？」と聞けば、子どもはどんなことを話せばいいか分かります。これが、子どもに思考力や表現力をつけさせることにつながっていきます。最後に、「その時の様子が目に浮かぶようだよ」などと言ってやれば話すことに自信がつきます。豊かな言葉は、家庭でも十分に育むことができるのではないのでしょうか。